

戦記

—父と母に—

7 (承前)

松崎一平

二人の心配そうな表情に、放っておけない気がして、何かおさがしですか、とわたしはたずねてしまった。これからのことを思って、不安な気持ちにおそわれたためだったのだろう。普段だったら、間違いなく、黙ってやり過ごすところだったのに。わたしよりもやや年長と思われる男性が、ちらと女性のほうに目をやりながら、憔悴しながらも、努めて気を張っているのが見て取れる表情で、妻と、息子をさがしているのです、と答える。そして、何度か繰り返したと思われる話を、なおことばを選びながら、努めて静かな調子で始めた。

息子は、大学では農学部で林業を勉強していたものですから、大学を卒業すると同時にこの土地に戻って、山林を管理している会社に就職して、張り切って働き始めました。四年前のことです。「自然を回復せよ！」運動で、新たに植林された木々が育って、林業が復興しつつありましたからね。ところが、いくさが始まり、そのうちに、ようやく商売になり始めていた（だから採用されたのですが）杉の伐採がむつかしくなって、会社に出ても、杉の生長を促すように手入れをする仕事を中心に、山林をあちこち巡回して過ごすことが多く、山麓の管理事務所と山とを行き来する生活が中心となって、あまり家に帰ることもなくなりました。

男性の話が長くなりそうだったので、わたしは二人に勧めて、砂浜が途絶えて植え込みが始まる辺りの、芝草が覆う場所に三人で腰を降ろした。男性の話はつづく。

息子は、この正月に久しぶりに家に戻って、山の話聞かせてくれたのですが、何か奇妙なことが起こっているのがとても気になっている様子でした。せっかくの正月休み。楽しい話題というわけでもないし、わたしたちを心配させたくなかったからでしょうか、詳しくは話してくれませんでした。息子は、山林を巡回していて、迷彩服を着た兵士たちが、たいていは三、四人連れで、武器を持って、周囲を警戒しながら、山腹を北へと、山並みが海にぶつかって岬となる方へと、移動していくのを、遠くから何度か見かけたというのです。木の枝や葉の動きや落ち葉を踏む足音にイノシシや猿がいるような気配を感じて、目をやると、ときには銃身の鈍いきらめきに気づくことがあったというのです。息子は、たいていはベテランの同僚と二人で行動していたようですが、兵士たちも、息子たちのような、山仕事をし

ている連中に、せめて顔を見られないように用心しているのか、いつも一定の距離を隔てて移動していたようですが、一度、お互いの顔が識別できるくらい近い距離で突然に出くわしたことがあったそうです。そのときは、兵士の一人が、息子たちに片手で銃を向けて、一方の手の指を一本立てて自分の唇にあてて睨みつけたということです。息子たちが、緊張しながらうなずくと、その兵士もうなずいて、さっと移動していった。顔は漆黒のサングラスと目深にかぶった帽子でよくわからなかったけれども、体つきや顎の表情が、高校生くらいにも見える、ひどく若い兵士だったそうです。初めてのことでとても怖かったよ、日が陰り始めた刻限で、空気がひんやりとして、と息子は言っていました。冬の間は、それほど頻りに山に入らなかつたらしく、息子は週末にはたいてい家に帰って来ました。兵士のことも、話題になることはありませんでした。三月になってからは、山に入る機会が多くなったようで、最後に帰宅したときには、山菜をどっさり持って帰りました。山ウドの酢みそ和えのおいしかったこと。そのとき、息子は気になることを言っていました。山で兵士の集団と出くわすことが以前よりも頻繁になった、しかも、集団の人数が以前よりも多くなった、ということです。家から管理事務所に戻って、息子が最後に山に入ったのが、十日ほど前。それから三日目に事件が起きました。息子と一緒に山に入っていたベテランの同僚がひどいけがをして、管理事務所にかろうじてたどりつきました。兵士の集団に遭遇して銃身で突かれるなどして攻撃され、自分がかろうじて逃れたが、息子は連れていかれた、ということです。管理事務所から連絡があって、事情の説明がありました。とにかく息子を捜さなければ、ということになった、わたしたちは息子の会社の人たちと、息子が連れ去られたという場所を中心に周囲を、これまで何度も何度も探しましたが、結局、まだ見つかっていません。何の手がかりも見つかりません。不思議なのは、警察がまったく何も捜索に協力しようとしないうこと。繰り返し連絡を取ったのですが、自分たちの生活に追われているらしく、捜査に動ける人が全然いないようです。昨日、死体が川を流れていたという話を聞いて、それが息子であるはずはない、そんなことがあるはずはない、と妻と語り合いながらも、それでもしかし、ひょっとしたら、と思い、今朝早くから河口辺りから始めて、海岸を探しているのです。家内もわたしも、息子のことが、心配で、心配で、眠られぬ夜を過ごしています。山が好きな（だから農学部に進んで、山仕事ができる職業を選びました）、穏やかな性格の息子です。それにしても、噂になるくらい多くの人が目撃したらしいのに、警察が捜索を始めた様子は、やはり全然ないですね。いったい、どうなっているのでしょうか。（7章了）